令和5年度
幼小中一貫教育の取組み

非認知能力で結びつけた未来へ向かう学びの可能性

太子町教育委員会
太子町幼小中一貫教育推進委員会

非認知能力を引き出し、
一人ひとりの可能性を広げる

太子町の幼小中一貫教育

太子町では、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、個々の可能性を最大限に伸ばすため、幼稚園から中学校までの学びと成長を連続的に結びつけた幼小中一貫教育を進めています。

幼小中一貫教育を推進するうえで、今後加速する社会の変化に対応する力として「非認知能力」に注目しています。「非認知能力」をテーマとした取り組みは、本町における教育活動の中心に位置づけております。私たちは、子どもたちの可能性を最大限に引き出すため、確かな学力だけでなく、豊かな心と健やかな体を育みながら、「非認知能力」をバックボーンとして教育を実践します。

「めざす子ども像」

「幼小中のつながりをもとに
豊かな人生とより良い社会を主体的につくるため
自ら考え、うごき、相手を大切にできる人」

令和4年8月に開催した研修で太子町立幼小中学校園のすべての先生が、太子の子どもの良いところ・課題・義務教育でつけたい力（教職員のねがい）、そしてこれまでの教育実践で大切にされてきた「非認知能力」について考えました。それを分析し、幼小中一貫教育で育む「子ども像」「太子町で育む非認知能力」としてまとめました。

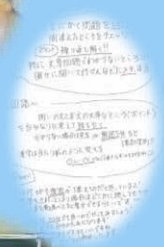
行事を通して

幼小中１２年間の学校園の生活を通して非認知能力を伸ばすために

新キャリアパスポートとカリキュラムマネジメントシートを導入

太子町立学校園では、非認知能力を育むために、単に教えるだけではなく、学校園生活全体に渡って意識的な取り組みを行っています。適切な環境設定と教職員の「見取り」の専門性向上・チームによる取り組みに努めています。

学校園が培ってきた伝統を尊重しながら、新たな取り組みを積極的に取り入れています。キャリアパスポートを通して子どもが非認知能力を自覚し、意識ができるようにしています。また、教職員がバラバラでつけたい力をつけるのではなく、教職員が一体となりカリキュラムマネジメントの視点から「見える化シート（カリキュラムマネジメントシート）」を作成し、幼小中の１２年間を通して非認知能力の伸長ができるようにしています。



遊びを通して

生徒会活動を通して

出会いを通して

授業を通して

子どもの非認知能力を磨き・伸ばす

幼小中の教職員で考えた学校園で大切にしたい共通の視点

子どもを主語に

・子どもが安心して自分を表現できる　・子どもが成長を実感できる　・子どもが自ら学ぶ

幼小中の教職員のつながりと専門性を磨く教職員研修

令和５年夏、太子町立学校園の全教職員が集まって、子どもの権利の観点から「太子の子ども」と関わる大人が学校園で大切にしたい共通の視点について考えました。当日はスクールソーシャルワーカーより、子どもの権利条約の講話があり、その後、子どもと関わる大人が大切にしたい大人の姿をレゴブロックを用いてワークショップ形式で幼小中の教職員でわいわいと交流しながら考えました。

子どもを主語にして考えると大人は何ができるのか？

子どもを主語にして考えるとは、例えば「子どもが安心して自分を表現できる」ために、大人の意見の押し付けではなく「子どもの気持ち・意見を尊重する」。「子どもが自身の成長を実感できる」ために、大人は子どもができそうなことは子どもに任せて「子どもの成長を支える」。「子どもが自ら学ぶ」ために、大人は一方的に教え込むのではなく「子どもの学びたいと思うきっかけを作る」。

このように「子どもが安心して自分を表現し、成長を実感でき、広い視野で社会と接し、自分の強みを見つけ、自ら学びたい」というきっかけを作るために、町立学校園の大人が子どもと関わる際の共通の合言葉を「子どもを主語に」としました。

太子町立学校園は「子どもを主語に」して子どもと接し、非認知能力を引き出し、一人ひとりの可能性を広げる幼小中一貫教育に取り組みます。

夏季休業中に実施した全教職員対象の研修

各学校園の取り組み発信

広報たいし で毎月取り組みを発信

令和５年１月号より、幼小中一貫教育の取り組みを発信しています。バックナンバーなどHPでもご覧いただくことができます。

11.17 教育フォーラム開催
取り組みを振り返り・展望を考える

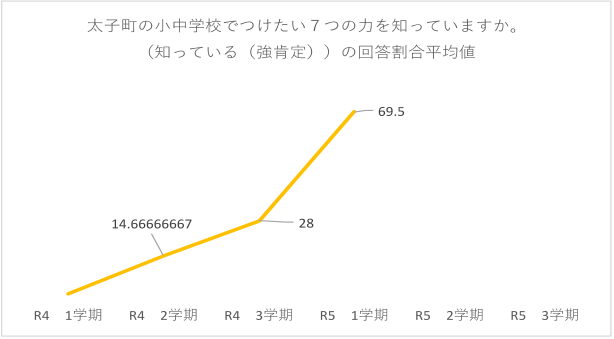
幼小中一貫教育の実践報告が各学校園からありました。次に「やってみたい子育てへの転換～非認知能力を育む子どもとの接し方～」と題して岡山大学准教授の中山芳一さんから講演会がありました。中山さんから「太子町での非認知能力の育成に向けた取り組みは、非常にしっかりされている」と講評がありました。

当日の様子は幼小中一貫教育のHPにて公開を予定しています。右記の二次元バーコードよりご覧いただくこともできます。

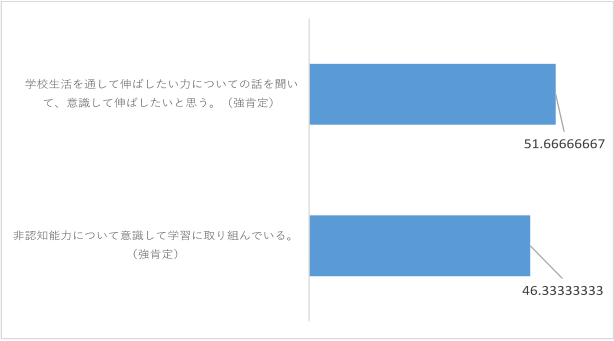
子ども意識調査から見える幼小中一貫教育

子どもの日々の学校園生活に活かすために、太子町では子ども意識調査を毎学期末におこなっています。

約７０％の子どもが７つの力を認知！



約５０％の子どもが伸ばしたい力を意識して学校生活に取り組む！



今後、子ども・教職員・家庭・地域でつけたい力を共有し、幼小中一貫して非認知能力の伸長を進めます。

太子町幼小中一貫教育　取り組み事例

うきうき・わくわく こころはずむ幼稚園

太子町立幼稚園

非認知能力を高めていく取り組み

○子どもたちがわくわく・どきどきする気持ちで遊びに熱中する中で、主体性を身につける。

○自然や身近な動植物に直接触れる体験的な活動に重点を置き、その中で子どもの好奇心や探求心を高めていく。

○三歳児、四歳児、五歳児の学年の枠を外し、異年齢での活動を大切にする。その中で、五歳児は、リーダー性や年下の友だちに対する優しさを身につける。また、三歳児や四歳児は五歳児に憧れを持ち、進んで協力する態度を身につける。

5歳児の取り組み

粘り強く、試行錯誤する力

アゲハの幼虫を発見！

ミカンの木にアゲハの幼虫を発見した子どもたち。「葉っぱいっぱい食べてる！」「捕まえたらかわいそう」と、捕まえずに、そのまま木で成長していく様子を見守ることにしました。黒くて小さかった幼虫が、大きな緑色の幼虫へと変化したことに驚いた子どもたちは、毎日、幼虫を見に行くようになりました。しかし残念なことに、雨が続いた連休明け、幼虫はいなくなっていました。子どもたちは「雨が駄目だったのかな？」「逃げたのかな？」と残念そうにしていました。

雨から幼虫を守ろう！

後日、別のアゲハの幼虫を発見した子どもたちは、「今度は雨から幼虫を守ってあげたい！」と気持ちが高まりました。そこで、みんなでどうしたらよいかを話し合うと「虫かごで飼う」という意見も出ましたが、「雨が苦手な幼虫の為に、屋根を付けよう」という意見にまとまり、子どもたちと雨との戦いが始まりました。一旦、屋根作りは成功したものの幼虫が屋根のない所に移動してしまうなど、試行錯誤の日々は続いていきました。

5歳児の取り組み

友だちと協力する力を育む

『むしむし村遊び』作り

子どもたちからの提案で、大好きな虫の世界をイメージしながら、いろいろなお店を作っていくことになりました。

最初は、自分がやりたいという気持ちが強く一人で作業進めることが多かった為、チームで話し合う場を設けました。遊びのイメージを共有したことがきっかけとなり、作る物を相談したり、困っている友だちに「手伝おうか?」と声を掛け協力したりする姿が見られるようになっていきました。

出来たお店で遊ぶ中、レストランの注文が殺到し一人では対応しきれない状況になりました。どうすれば良いのかみんなで相談し、一人では大変だということ、役割分担することの大切さに気付くことが出来ました。

保護者や異年齢の友達を招待

友だちと協力して遊びをすすめられるようになったことで、保護者や異年齢の友達を招待し、自分たちの作ったお店で遊んでもらう満足感を味わうことが出来ました。活動を通し、友達と協力する楽しさや大切さを学ぶ機会となりました。

4歳児の取り組み

相手の気持ちになって考える

ﾂﾏｸﾞﾛﾋｮｳﾓﾝﾁｮｳの幼虫と遊ぶ様子

園庭のプランターに集まる幼虫に興味をもった子どもたち。小さなバケツに、幼虫とエサになる花をちぎって入れるものの、花はすぐに枯れ、幼虫も元気がなくなってしまいました。そこでどうすれば幼虫も花も喜ぶのかを考え話し合う場を設定しました。

お花レストランで幼虫を観察する様子

幼虫を逃がしたくない子どもたちは幼虫が住んでいたプランターを保育室に持ってくることにしました。プランターから幼虫が逃げるのではないかと、心配しながら降園した子どもたちでしたが、幼虫は翌日もプランターで元気にしていました。子どもたちは喜び、大量の幼虫を集めてきましたが、プランターの花を食べつくすと次々に幼虫が逃げ出すようになりました。その度に新しいプランターを運び、幼虫を移動させ、子どもたちによるお引越し大作戦が行われました。

この活動を通し、子どもたちが生き物に寄り添い大切に扱うようになりました。また、毎日観察する中で、幼虫が変態していく過程を見ることも出来、様々な発見へと繋がっていきました。

3歳児の取り組み

関わりを楽しむ

どこに穴を作る？…ここ！

砂場で遊んでいた子どもたち、「水を入れるとどうなるだろう？」と、泥んこ遊びが始まりました。砂場に置かれた大きなタライに、一人がバケツで水を運び出すと「一緒に運びたい!」と自分が使うバケツを取りに行き、何度も水を汲みに行く姿がありました。一人から始まった水汲みはやがてクラスみんなに広がり、タライに満タンの水を運ぶことが出来ました。

水たまり、気持ち良いね

砂場に作った大きな穴の中にどんどん水を入れていく子どもたち。水がたまると「温泉みたい！」と言い、次々に水たまりの中へ入っていきました。砂と水が混ざり合う感触を味わい、友達と顔を見合わせては歓声をあげ、楽しい気持ちを共有していました。友だちと力を合わせることで、出来たという達成感を感じられる活動となりました。

幼小交流

2年生とサツマイモ植え

七夕交流

憧れの存在を身近に感じる

小学生との交流では、少人数のグループでの活動を楽しみました。自分たちより年上の小学生に少し戸惑う姿も見られましたが、優しく声をかけてもらい、丁寧に教えてもらうという経験をすることが出来ました。交流前からも小学生に憧れる気持ちの大きかった子どもたちではありましたが、「この前、一緒にお芋を植えたお姉さん、お兄さんみたいになりたい」など目標が具体的になりました。自分たちも同じようにやってあげたいという気持ちが大きくなり、自分たちがやってもらったことを、同じように真似る姿も見られるようになりました。

大切にしている点

子どもの「やりたい」を実現させる

町立幼稚園では、普段の活動の中で子どもたちが感じる「なんでだろう？」「ふしぎだなあ？」「やってみたいな！」という気持ちを大切にしています。子どもたちの質問や疑問にすぐに答えるのではなく「どうしてだろう？」と一緒に考えることで子どもたちが、考える楽しさ、答えを見つける喜びを味わい、もっと知りたいという意欲がどんどん湧いてくる保育を目標としています。その為には、子どもたちが中心となって話し合いながら、活動を進め、教え合える関係を築くことが重要であると考えています。

太子町幼小中一貫教育　取り組み事例

一人ひとりの資質・能力の向上と他者とのよりよい関わりを目指して

太子町立磯長小学校

活動を通して 学ぶ

令和五年度磯長小学校では、活動を通して児童に気付きを与え、そのうえで学ばせていくことを大事にしています。

まず、異学年交流では、本年度からたてわり班を用いて全学年と交流ができるようにしました。そこから、自分より年下の学年に対してどのように関わるのか、また集団で行動するためには、どのように行動しないといけないかなどを実体験を通して学べるようにしています。

次に、これまで行われてきた行事については、太子町で設定されている非認知能力を意識することで、学びを深めるように工夫しています。具体的には、目標の設定、中間の振り返り、最後の振り返りを行う事で、ただ行事を行うだけでなく、そこから子どもたち自身で学びを深めることができるようにしています。

最後に授業については、主体的な学びを実現するために、主に国語を通して言語活動を設定し、そこから学びを深めることができるようにしています。

子どもたちが主役となって、豊かな心を持つ、元気な子どもの育成をめざしています。

行事を通した非認知能力の育成

運動会を通した取り組み

磯長小学校では、１０月１５日（日）に運動会が開催されました。それまでの３週間で、学年で一致団結し団体演技や団体競技の練習に励んできました。太子町で７つの非認知能力が設定されていますが、本校では「あきらめない力」「粘り強い力」の育成を掲げてきました。子どもたちは、おうちの人や今までお世話になった人たちに自分たちの成長した姿を見せたいと感じ、日々練習に取り組みました。

また、係活動を中心に他学年交流も盛んに取り入れました。運動会前日のリハーサルでは、他学年の演技を見る機会を設定しました。子どもたちは初めて見る他学年の演技に大きな拍手をしていました。本番では手拍子をしたり一緒に踊ったりする姿が印象的でした。

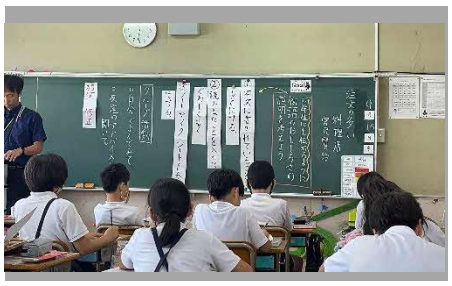
当日は応援団がプログラムの初めから最後まで応援する姿が見られ、活気にあふれた運動会になりました。また、5、6年生は運動会を成功させるためにそれぞれ係活動を精一杯頑張りました。大勢の人に喜んでもらうことができる運動会になりました。

二上遠足を通した取り組み

１１月２日（木）にたてわり班で二上遠足に行ってきました。本年度から６年生をリーダーとして全学年で班を編成しました。もちろん６年生のリーダーシップの育成も目指しています。ただ、６年生だけが頑張るのではなく、それぞれの学年で兄弟学年（１、６年、３、４年、２、５年）の関わりを主として、どのように関わるのかを考えるように促しました。当日は、どの児童もそれぞれの役割を考えて行動し、大きなトラブルもなく、楽しく終えることができました。

国語授業づくりの取り組み

試行錯誤を意識した取り組み



５年生で、「注文の多い料理店」の学習が行われました。子どもたちの学習意欲をかきたてるために、この教材を用いて、「注文の多い料理店のおもしろさを考えて伝えよう」という活動をおこないました。

活動を行うために、文章の読み取りをおこないました。おもしろさを、「①しんしについて」「②物語のしかけ」「③おもしろい表現」「④この作品が伝えようとしていること」に分類し、そのおもしろさを感じながら読み取りの授業を行いました。

読み取ったことを基にして、子どもたちそれぞれが感じる注文の多い料理店のおもしろさをまとめる時間を設けました。そこでは、伝える相手となる４年生に本当にそのおもしろさが伝わるようになっているかを確認することなど試行錯誤してまとめていくことができるようにしました。

単元の最後には、実際に４年生にそのおもしろさを伝える活動を行いました。５年生の発表を中心にしながら、中間指導で４年生がどのように聞いているかを共有することで、より相手におもしろさが伝わるようにしました。

支援学級

交流学習を楽しんでもらうために

2学期　３年生と交流学習

2学期は10月に3年生と交流学習をしました。事前に3年生との交流方法を自分たちで考えました。「作る、遊ぶ、運動する」というテーマを基に、３年生に楽しんでもらうために各コーナーで使うものやゲームのルール、必要な役割を話し合いました。1学期の経験があったので、よりよい準備ができました。

自分たちで考えて

高学年が中心となって、準備を進めました。足りない物は自分たちで作りました。当日はルール説明をして、役割分担をした仕事をそれぞれ頑張っていました。

３年生の子どもたちもとても楽しんでくれ、最後にお礼の言葉をもらったときは、子どもたちはとても嬉しそうでした。楽しんでもらうために頑張って良かったと実感した様子でした。

体力向上の取組

体育委員会主催　ボール投げ

春に実施したスポーツテストで、「投げる」という項目を苦手にしている事が分かりました。

これを受け、９月に体育委員会が昼休みに学級毎に「大玉投げ転がし」をおこないました。大小のバランスボールに、玉入れの玉を３０秒間で何回も投げて当てるゲームです。高学年では大玉を転がすことができました。

体育委員会主催　ドッジボール大会

10月下旬から学級対抗でドッジボール大会をしています。今年は低・中・高学年に分かれてリーグ戦形式で行っています。どの学級も3試合以上することができます。他学年とするときは、年上の学年も負けるわけにはいかないので真剣です。ルールの中でうまく当てる工夫をどんどん出し合い、工夫を楽しめるようになって欲しいです。

太子町幼小中一貫教育　取り組み事例

～自ら考え・伝え・つながる子ども～

太子町立山田小学校

子どもの思考を整理する

本校では、これまで「学習の基礎となる力の育成」を重点事項として取り組んできました。

昨年度からは、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う児童の育成」をテーマに、３ヵ年計画で取り組みを進めています。昨年度は【思考を促す】、今年度は【思考を整理する】、来年度は【思考を発信する】をサブテーマに掲げ、授業研究に取り組んでいます。

また、児童の成長を促すために、テーマに沿った非認知能力の育成にも取り組んでいます。本校で取り組んでいる内容を、各担当ごとに紹介します。

太子町内で幼小中一貫教育をすすめることで、これまで以上に系統性のある教育を提供できると考えています。

これからも町内学校園と連携しながら取り組みを進めていきたいと思います。

生活指導

「どの子にとっても安心できる環境づくりを」

本校では、多様な他者とふれあうことで、自他のよさに気づき、人間関係を深め、自己有用感・自己肯定感を高めることをめざして、たてわり活動を行っています。

たてわり活動には「高学年の児童にリーダーとして活躍の場を」「低学年が安心して学校生活を送れるように」という大きな２つの目的があります。今年度は、全校児童１８６名を１０のグループに分けました。

１学期は、「たてわり遠足」や「たてわり遊び」などを行いました。

「たてわり遠足」では、関西サイクルスポーツセンターに行きました。高学年のリーダーたちが中心になって、年下の学年の児童に配慮しながら、体験するアトラクションやウォークラリーコースなどを考えて活動しました。過去には京都水族館・京都鉄道博物館などに行ったこともあります。

「たてわり遊び」では、１０グループを中遊び（屋内：教室や体育館）と外遊び（屋外：運動場）に分けて活動しました。リーダーたちは、グループのメンバーにやりたい遊びは何かを尋ね、当日の遊び場所や必要な持ち物を事前に周知してから取り組みました。どの活動でも「もっとやりたい！」という声が、たくさん聞かれました。

今後も児童会が中心となって楽しい行事を考え、学級・学年を越えた「人とのつながり」を大切にしながら、どの子どもにとっても安心できる環境づくりをすすめていきます。

学力向上

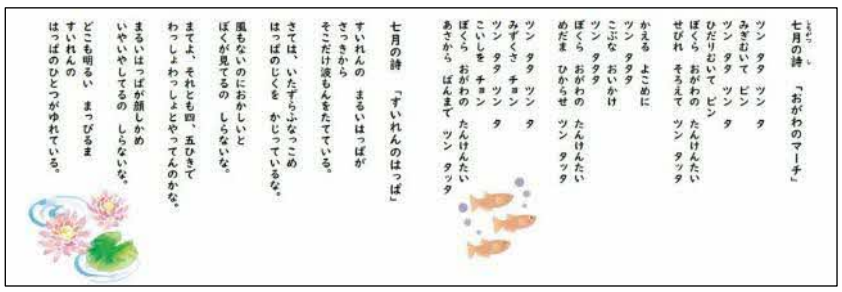
～自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う児童の育成～を テーマに校内研究に取り組む

●学習の基礎となる力の育成

朝の学習では、基礎となる計算・漢字などの学習や思考力向上のための活用問題に取り組んでいます。算数の授業では、自分の考えを書く時間や計算タイムを設定し、算数的思考力や計算力の向上を図っています。家庭学習の充実に向け、宿題だけでなく自主学習ノートにも取り組み、工夫されたノートは意欲向上のためコメントをつけて掲示しています。今年度、子どもの思考を整理し、非認知能力・自己肯定感を高めるために「ことばで伝える」取り組みを始めました。引き続き「聞き手を意識して書く力」や「イメージして聞く力」の育成につなげる作文朝会にも取り組んでいきます。

支援教育

「一人ひとりのニーズに寄り添いながら子に応じた支援の充実を図る」



七月の詩　「おがわのマーチ」

ツン　タタ　ツン　タ
みぎむいて　ピン
ツン　タタ　ツン　タ
ひだりむいて　ピン
ぼくら　おがわの　たんけんたい
せびれ　そろえて　ツン　タッタ
かえる　よこめに
ツン　タタタ
こぶな　おいかけ
ツン　タタタ
ぼくら　おがわの　たんけんたい
めだま　ひからせ　ツン　タッタ
ツン　タタ　ツン　タ
みずくさ　チョン
ツン　タタ　ツン　タ
こいしを　チョン
ぼくら　おがわの　たんけんたい
あさから　ばんまで　ツン　タッタ

七月の詩　「すいれんのはっぱ」

すいれんの　まるいはっぱが
さっきから
そこだけ波もんをたてている。
さては、いたずらふなっこめ
はっぱのじくを　かじっているな。
風もないのにおかしいと
ぼくが見てるの　しらないな。
まてよ、それとも四、五ひきで
わっしょわっしょとやってんのかな。
まるいはっぱが顔しかめ
いやいやしてるの　しらないな。
どこも明るい　まっぴるま
すいれんの
はっぱのひとつがゆれている。

言葉で正しく伝え合おう！（自立活動の時間）

「どんなことを話せばいい？」「何に気を付けて聞けばいい？」など、一人ひとりのニーズに応じて、話し合い活動を行いました。１学期は情報カードゲームを取り入れました。自分の情報と他者の情報をすり合わせることで、正解にたどり着くクイズ形式のものです。２学期も円滑なコミュニケーションスキルを高められるよう、継続して取り組む予定です。

読む楽しさを味わおう！（詩の音読・暗唱）

毎日の宿題で詩の音読に取り組んでいます。詩の内容は月替わりで、子どもたちがわくわくして取り組めるものや、季節に合ったものを選んでいます。一人ひとりの目標に合わせて、ひらがな・カタカナ・漢字など、文字の表示の仕方を工夫しています。月末に行う暗唱テストに向けて毎日続けることで、どんどん上達し、読む楽しさを味わうことができました。

体験を通した学び「出会い」

本校では、出会い・体験を重視した取り組みを実施しています。地域と連携した田植え・稲刈り体験、ゴスペルシンガーによる人権講演会、文化庁による文化芸術派遣事業でのオーケストラ音楽鑑賞会やダンス講習会、外部講師を招いた走り方教室や消費者学習、食育学習にも力を入れています。また、パラアスリートや絵本作家にも来校していただき、子どもたちと交流していただきました。

子どもたちは様々な分野で活躍している方々との出会いを通じて、将来への夢や憧れを抱くことや、未体験の分野にチャレンジする楽しさを実感しているようです。子どもたちに「何事にも恐れずに挑む」力を育成したいと考えています。

太子町幼小中一貫教育　取り組み事例

一人ひとりの良さが輝く 魅力ある学校づくり

太子町立中学校

太子町立中学校　学校教育目標

太子の土壌に立ち　未来を見据え
自ら学び　自ら動く生徒
一人ひとりの良さが輝く学校

【学校概要】

◆教育課程（学年運営・学級運営・授業・行事・部活動など）のすべてが、学校教育目標につながるように意識をする。

わがまち連絡会
▼学年でつけたい力…見える化シート①の作成。
▼行事でつけたい力…見える化シート②の作成。
▼キャリアパスポートで自己評価・自己認識。

支援教育
▼自立活動の栽培活動を通して育てる非認知能力。

学力向上
▼確かな学びを育む取り組み。
▼生活委員会に呼びかけ、勉強の仕方・学校生活の困り感などの疑問に答える「壁新聞」の作成。

生徒指導
▼非認知能力を育む伝統の「業間運動」。
▼一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して。

未来を生きる力を育む生徒主体の授業づくり
▼学び続ける教職員集団を目指して。
▼普段の授業から非認知能力を育むことを意識。

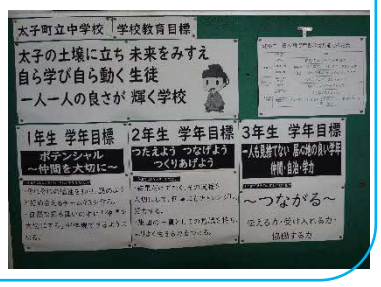
生徒会活動（学校はＭＳＰを学ぶところ）
▼検討会議について。

わ　が　ま　ち

『非認知能力の育成』を軸としたカリキュラムマネジメント（学習効果の最大化）の構築

◆学年でつけたい力…見える化シート①の作成、生徒玄関に掲示。

►何のために学校があるのか？
►どのような学年にしたいのか？
►この1年でどのような力をつけさせたいのか？
►そのためには何を意識して取り組むべきなのか？
（新学年がはじまる4月当初に学年教職員、生徒に伝えること）



◆行事でつけたい力…見える化シート②の作成、職員室に掲示。

►この行事は何のためにあるのか？
►この行事を通してつけさせたい力は何か？
►そのためには何を意識して取り組むべきなのか？
（行事を始める前に生徒に伝えること）

◆キャリアパスポートの作成、各学期、行事での自己評価

►自らの学校生活を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価・自己認識すること。

►個人で伸ばしたい力・つけたい力を決める。
（7つの非認知能力より選ぶ）

支援教育（あおば学級）

自立活動「栽培活動」通して育てる非認知能力

◆【4月中旬】
どの野菜を育てるかをあおば学級メンバーで協議する。（伝える力、受け入れる力）

◆【4月末】
種・苗を自分たちで買いに行く。（協働する力）

◆【5月上旬】
耕運機、クワを使って自分たちで畑の土壌、畝づくり、種まき、苗植え。（自分を調整する力、あきらめない力）

◆【7月】
野菜の収穫、収穫した野菜を教職員に販売。（協働する力、挑む力）

＊あおば学級では、自分の役割を責任をもって果たす力を伸ばすことを目標としています。野菜を育てるという自立活動を通して、一人ひとりの必要な支援につなげています。自立活動を通して、自分の役割を果たすことが、みんなのためになることや、みんなと協力し、達成する喜びを大切にしています。

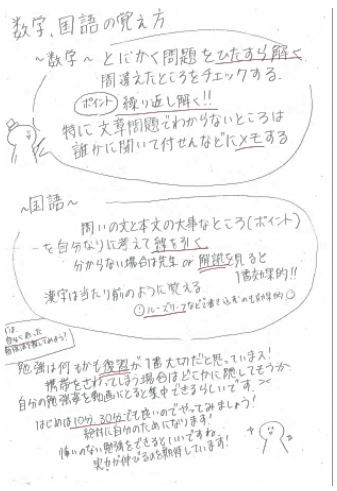
学　力　向　上

確かな学びを育む取り組み

◆本校の学力課題
►思考・判断・表現力を問われる問題の正答率が低い。
（全国学力・学習状況調査調査より）
►主体的に学習に取り組む力の育成。

『卒業時までにつける力』を明確にする。
⇒卒業時までにつける力を、逆向きで設計図を作り、計画通りに進んでいるかを見直し、全体で共有しています。
そのための教科会議を持ち、学期ごとの見直しを実施しています。

確かな学びを育む生活委員会（生徒間）の取り組み



◆1学期
生徒会と新聞委員会が共同で、「1年生向けに、中間テストに向けての学習方法や、中学校生活で困っていないか」についてのアンケートを取り結果を壁新聞として掲示しました。2・３年生は、自分たちの学習方法を確認し合い、参考になる取り組みを紹介しました。

◆1・2学期
図書委員会が中心になり、学校図書室にある本「ノートの取り方」「〇〇の勉強法」などを、ポップやスライドなどにまとめ、学習方法の参考になる取り組みとして紹介しました。

生　徒　指　導

非認知能力を育む、町立中の伝統『業間運動』

◆「業間運動」は、３０年以上続く町立中伝統の取り組みです。集団行動を通して、他人への思いやりの気持ちを大切にしています。
「自分と向き合う」「自分を高める」「つながる」という非認知能力を意識しています。

校内支援教室「あゆみルーム」

◆一人も見捨てない居心地の良い学校を目指して
「あゆみルーム」…教室に入りにくい、集団が苦手な生徒が安心して自分のペースで学べる場所。（R４年９月～）

►自分の時間割を決め、ホワイトボードに記入。
⇒自分の行動を自分で決定する。（自分を調整する力）

►担任や学年の教職員、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、多くの教職員との関わりを通して、「目標・夢を持つ力」「伝える力」「協働する力」などの非認知能力の育成につなげています。

未来を生きる力を育む　生徒主体の授業づくり
（令和５年度校内研究テーマ）

学び続ける教職員集団を目指して

◆相互授業参観の実施
►参観前に、工夫している点は？
►意識している点は？
►ギミックは？（工夫）
►振り返りは？

＊参観者と授業者が、その授業参観前に様々なことを知ることで、お互いに内容を意識してポイントを絞り、研修を深める。

普段の授業から非認知能力を育むことを意識

◆「教科ごとに考える非認知能力」の研修を計画的に実施。
講師：徳留宏紀さん
　　とオンライン研修（7/20）
►振り返りの重要性
►非認知能力の「見える化」
⇒ルーブリックの作成
►取り組んだことの情報交換（9/6）

生徒会活動（学校はMSPを学ぶところ）

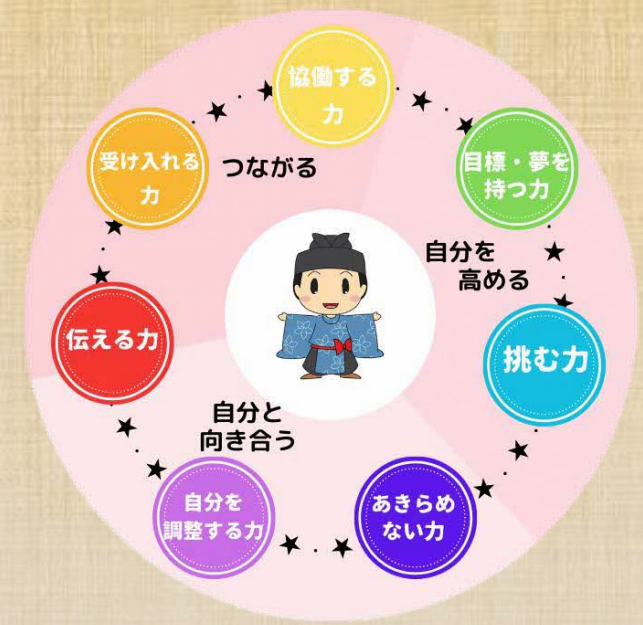
町立中学校検討会議

◆学校はMSPを学ぶところ
►「私たちが毎日通う『学校』って何だろう？」
「どうして『学校』があるのかな？」について生徒会を中心に考えることに。

最終的に「学校はMSP＝（非認知能力）を学ぶところ」という結論に
M(目に見えない)　S特別な(specialな)　P(プラス)
►目に見えるわかりやすいプラスだけではなく、一見、マイナスに思うこと(悩みやトラブルなど)も、とらえ方や意識次第で自分のプラスになるという考え方のことです。なので、学校生活の様々な出来事はプラスになることだととらえ、それらを学ぶ場所が学校であるという結論になりました。

町立中学校検討会議を設け、学校内の具体的なこと（校則、行事、生活等)について考えていく場を設置しています。学校は生徒、教職員や、様々な人がいて成り立っており、その全員で話し合う場として設定しています。保護者の方にも関わってもらうことも考えており、今後、みんなで一緒に考えていく、力を合わせていくような場にしていきたい。

子どもを主語に
非認知能力を引き出し、
一人ひとりの可能性を広げる
＝太子町の幼小中一貫教育＝



太子町の幼小中一貫教育の取り組みをHPで発信中
二次元コードをスマホ・カメラで読み取ることで確認できます▶

「広報たいし」では日々の学校園の取り組みを発信！

太子町の学校で、子どもの成長を支え・関わりたい！
講師募集状況を掲載中！▶▶▶
お気軽に下記連絡先へお電話ください！

お問い合わせ：太子町教育委員会教育総務課　0721（98）5533